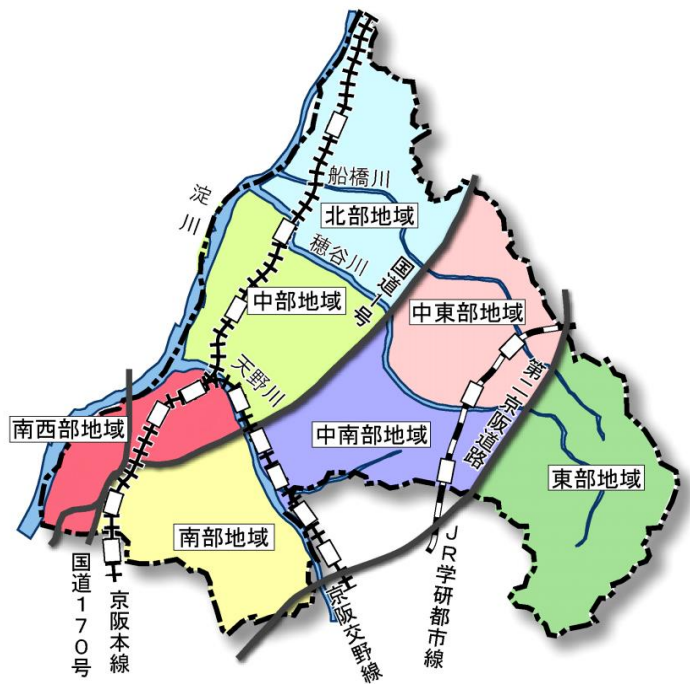
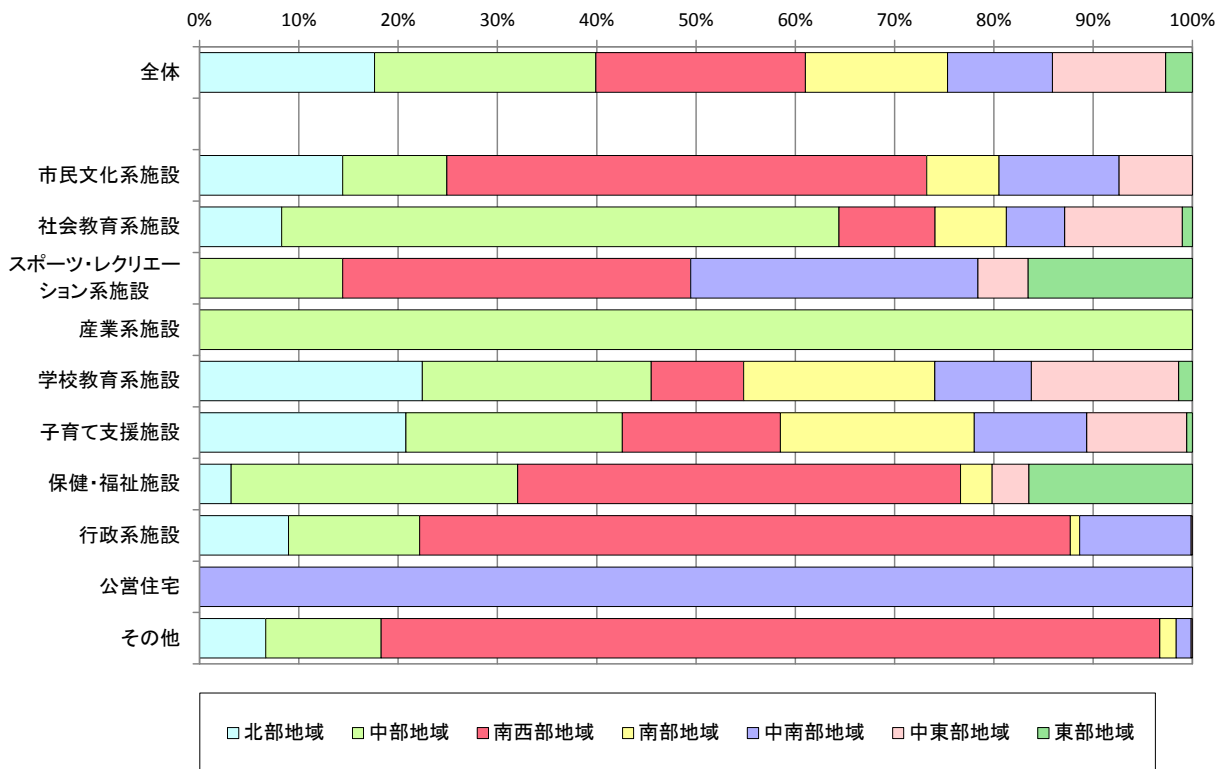


## 4 地域別の状況

地域別に公共施設の配置状況をみると、京阪樟葉駅を中心に発展してきた北部地域は学校教育系施設、住宅地として発展してきた中部地域では社会教育系施設、本市の玄関口として発展してきた南西部地域では行政系施設、本市を代表する住宅地の南部地域では子育て支援施設、東西に走る国道307号の周辺に工業団地が形成された中南部地域ではスポーツ・レクリエーション系施設、郊外都市として住宅地が形成された中東部地域では学校教育系施設、豊かな自然環境を保全したまちが形成された東部地域では保健・福祉施設が相対的に多いなど、それぞれの地域によって特色があります。

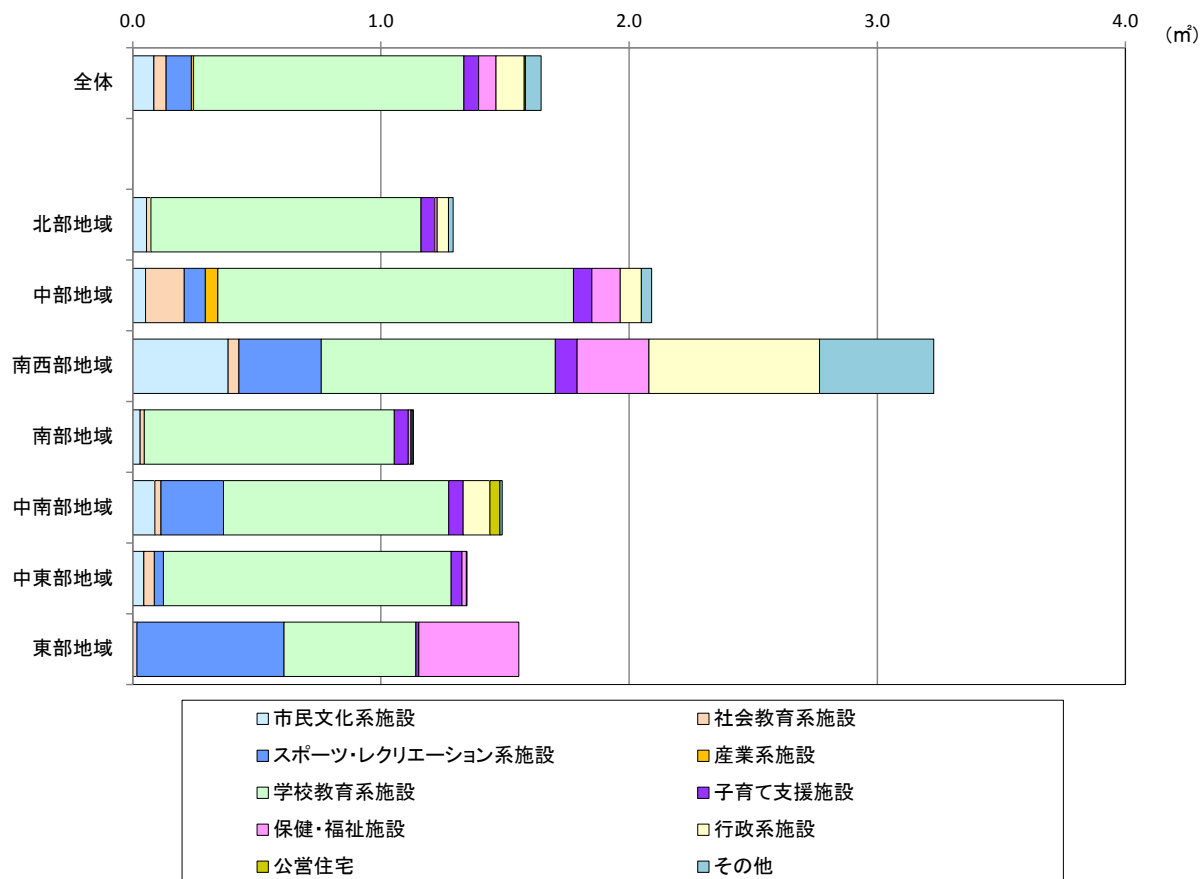


【地域区分（都市計画マスタープラン）】



【施設分類別・地域区分別の延床面積の割合】

地域人口1人あたりの公共施設の延床面積で比較すると、南西部地域が最も大きく 3.23 m<sup>2</sup>となっており、次いで中部地域の 2.09 m<sup>2</sup>となっています。最も小さいのは南部地域の 1.13 m<sup>2</sup>であり、南西部地域の3分の1にとどまっています。



【地域人口1人あたりの施設分類別の延床面積の比較】